

科目名	心理学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	池辺 陽子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	医療従事者として患者の心や治療者の心の動きを理解するために必要な、心理学の基本的な考え方と基礎知識を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				知覚と認知のプロセスを説明できる。	
	○	○				記憶と学習のプロセスを説明できる。	
	○	○				人がどのように動機づけられるのか説明することができる。	
	○	○				人の心の動きに影響する対人的、社会的状況を説明できる。	
	○	○				カウンセリング技法についてロジャースの理論を理解し、医療従事者として必要な態度を知る。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:イラストレート 心理学入門 誠信書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	心理学とは 授業の進め方			授業に該当する教科書の部分について復習		
	2	第1章 知覚と認知の心理			授業に該当する教科書の部分について復習		
	3	第2章 感情と情緒の心理			授業に該当する教科書の部分について復習		
	4	第3章 欲求と動機の心理 - 生理的欲求			授業に該当する教科書の部分について復習		
	5	欲求と動機の心理 - 心理的欲求			授業に該当する教科書の部分について復習		
	6	第4章 学習と記憶の心理 - 学習			授業に該当する教科書の部分について復習		
	7	学習と記憶の心理 - 記憶			授業に該当する教科書の部分について復習		
	8	第5章 性格と気質の心理 - 類型論と特性論			授業に該当する教科書の部分について復習		
	9	性格と気質の心理 - 性格検査法			授業に該当する教科書の部分について復習		
	10	第6章 無意識と深層の心理 - フロイト			授業に該当する教科書の部分について復習		
	11	第6章 無意識と深層の心理 - アドラー・ユング			授業に該当する教科書の部分について復習		
	12	カウンセリングマインド - ロジャース			授業に該当する教科書の部分について復習		
	13	第8章 自己と対人の心理			授業に該当する教科書の部分について復習		
	14	第9章 社会と組織の心理			授業に該当する教科書の部分について復習		
15	まとめ						
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				80%
	宿題・レポート	○	○				20%
履修上の注意	国家試験過去問題に目を通し、重要箇所を理解した上で授業に臨むこと。その上で、医療従事者として心理学について更なる理解を深めることが望ましい。						

科目名	社会福祉学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	常安 栄		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	社会福祉を様々な角度から理解し、医療人として必要な社会福祉の知識と援助方法を身に付ける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				社会保障制度の概要について説明できる	
	○	○				それぞれの福祉制度について概要説明できる	
	○	○				福祉についての基礎知識を利用し、事例検討を行い問題点を列挙することができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書: コメディカルのための社会福祉概論(第4版) 講談社 参考文献: 厚生労働白書 平成30年度版 厚生労働省・社会福祉の動向 2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション、社会福祉の基礎と歴史			教科書の本日の授業について該当部分を復習する。		
	2	社会福祉の組織と担い手			教科書の本日の授業について該当部分を復習する。		
	3	社会保障制度			教科書の本日の授業について該当部分を復習する。		
	4	公的扶助			教科書の本日の授業について該当部分を復習する。		
	5	地域福祉			教科書の本日の授業について該当部分を復習する。		
	6	こども福祉			教科書の本日の授業について該当部分を復習する。		
	7	障害者福祉(1)			教科書の本日の授業について該当部分を復習する。		
	8	障害者福祉(2)			教科書の本日の授業について該当部分を復習する。		
	9	高齢者福祉			教科書の本日の授業について該当部分を復習する。		
	10	介護保険制度			教科書の本日の授業について該当部分を復習する。		
	11	医療福祉と精神保健福祉			教科書の本日の授業について該当部分を復習する。		
	12	ソーシャルワーク(社会福祉の相談援助)			教科書の本日の授業について該当部分を復習する。		
	13	権利養護・事例検討			教科書の本日の授業について該当部分を復習する。		
	14	事例検討			事例について理解を深める		
15	全体のまとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	統計学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	高橋 昂也		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	統計学は、実験で得られたデータを客観的に解釈するために必要な知識である。本講義では、統計学で用いられる様々な分析方法を学ぶとともに、実際にデータを用いて分析して貰います。本講義終了時には、基本的な統計学の知識・技術を皆さんが身に着けていることが目標です。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○	○			目標		
			○		統計データについて種類や特性について理解する		
				○	基本的統計について簡単な計算ができる		
					科学的な手法について興味を持つ		
テキスト・教材 参考図書	教科書:なし 参考文献:統計学教育研究会編(2006)『らくらく統計学』, ムイスリ出版,						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	統計データの整理			本日の授業内容を復習してください		
	2	標本分布の値の特性値			本日の授業内容を復習してください		
	3	2次元データの特徴を表す特性値			本日の授業内容を復習してください		
	4	期待値と分散			本日の授業内容を復習してください		
	5	標本平均の分布			本日の授業内容を復習してください		
	6	標本分散の分布			本日の授業内容を復習してください		
	7	点推定と推定量の望ましい性質			本日の授業内容を復習してください		
	8	母平均の区間推定(1)			本日の授業内容を復習してください		
	9	母平均の区間推定(2)			本日の授業内容を復習してください		
	10	仮説検定の基本的な考え方			本日の授業内容を復習してください		
	11	平均値に関する仮説検定(1)			本日の授業内容を復習してください		
	12	平均値に関する仮説検定(2)			本日の授業内容を復習してください		
	13	分散に関する仮説検定			本日の授業内容を復習してください		
	14	分散に関する仮説検定			本日の授業内容を復習してください		
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○	○			80%
	小テスト	○	○	○	○		20%
履修上の注意	電卓を持参すること 小テストを行います						

科目名	情報処理						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	山本 昌枝		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	Word・Excel・PowerPointのアプリケーションソフトの基礎的な操作を学習し、レポート・発表会資料等の作成時に活用することができる。文章の入力に関して、5分間で200字以上(3級レベル)の文字入力ができる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			キーボード入力が正確でスピーディに行えるようになる。(5分間で200字3級レベル程度以上)	
	○	○	○			Wordを使用してレポートや論文が作成できるようになる。	
	○	○	○			Excelを使用して表計算機能ができるようになる。	
	○	○	○			PowerPointを使用してスライド・資料作成ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 情報リテラシー アプリ編 Word2016・Excel2016・PowerPoint2016 (FOM出版) 参考文献: 医療従事者のための情報リテラシー (日経BP社) 情報リテラシーパーフェクトブック (ウイネット)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、Windowsの基礎、入力速度チェック				入力練習・復習	
	2	Wordの基礎、文字入力、編集、保存				入力練習・復習	
	3	書式設定、画像、SmartArtグラフィック				入力練習・復習	
	4	表、ページ罫線、タブ				入力練習・復習	
	5	ワードアート、段組				入力練習・復習	
	6	Word復習テスト・他				入力練習・復習	
	7	Excelの基礎、文字・数値の入力、表作成				入力練習・復習	
	8	表作成、四則演算、関数(SUM,AVERAGE,MAX,MIN)				入力練習・復習	
	9	絶対参照、関数(COUNT,COUNTA,IF)				入力練習・復習	
	10	データ分析(並べ替え、オートフィルタ)、グラフ作成				入力練習・復習	
	11	Excel復習テスト・他				入力練習・復習	
	12	キーボード入力の記録会、PowerPointの基礎				入力練習・復習	
	13	スライドの作成、スライドの書式設定				入力練習・復習	
	14	画像等の挿入、画面切替え、アニメーション、リハーサル、資料の作成				入力練習・復習	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記・実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記・実技)	○	○	◎	○		60%
	小テスト	○	○	◎	○		40%
履修上の注意							

科目名	英語 I						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	森 憲子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	職場において外国からの患者さまにも苦手意識なく接することができるよう、英語の表現を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		苦手意識を払拭し、今ある英語力を駆使して日常会話における説明ができる。	
	○	○		○		ノンバーバルなコミュニケーションを利用し英語でのやりとりをよりスムーズにすることができる。	
	○	○		○		積極的に英語劇に参加していく態度を身につける。	
	○	○		○		医療従事者として働くにおいて初対面の方への最低限必要なやりとりができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:「マナーとホスピタリティの英語Ⅲ 介護・看護・リハビリ」 鷹書房弓プレス						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	・アンケート・自己紹介・マナーとホスピタリティ(教科書)について				今日の授業内容を復習する	
	2	・Unit 1 基本コミュニケーション ・フォニックス				今日の授業内容を復習する	
	3	・Unit 2 「挨拶と自己紹介」会話部分(Dialog)、(Exercizes)				今日の授業内容を復習する	
	4	・Unit 2 「挨拶と自己紹介」会話部分(Dialog)、(Exercizes)				今日の授業内容を復習する	
	5	" (Exercizes 続き) ・頻度の表現 ・時の表現他				今日の授業内容を復習する	
	6	・Unit 4 「道順」 ・Unit 3 の劇 (Exercizes 場所のきき方)				今日の授業内容を復習する	
	7	" (Exercizes 続き 診療科名)				今日の授業内容を復習する	
	8	・Unit 5 「入浴」 ・Unit 4 の劇 (Exercizes 実習時の言葉)				今日の授業内容を復習する	
	9	" (Exercizes 続き これからすることを説明する表現)				今日の授業内容を復習する	
	10	" (Exercizes 続き これからすることを説明する表現)				今日の授業内容を復習する	
	11	" (Exercizes 続き 意見を聞いたり、述べたりする表現)				今日の授業内容を復習する	
	12	・Unit 7 「チームワーク」 ・Unit 6 の劇 (Exercizes)				今日の授業内容を復習する	
	13	" (Exercizes 続き 体の部分の英語、症状を表す表現)				今日の授業内容を復習する	
	14	・Unit 8 「基本動作を表す表現」・Unit 7 の劇				今日の授業内容を復習する	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎		◎		100%
履修上の注意	各ユニットの会話部分についてはクラス全員の皆さんに劇をしてもらいます						

実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	身体を単純に動かすだけでなく、楽しみながら動かす体験を積みことにより、運動法・パフォーマンス・他者に対して理解しやすい伝えかたなどを養う。またグループでオリジナルの運動方法を創作することにより、組織作業模擬体験し、組織力や企画・備後・応用力を養うことを目標とする。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			身体運動を通して、楽しむことができストレスを解消する手立てとしていくことができる。	
			○			運動法を理解し、模倣から正しい実践につなげていくことができる。	
	○		○	○		チームプレーを通して、他者理解を学び。伝え方を工夫していく方法を獲得する。	
			○	○		グループにおける、役割を意識しながら協動的に課題を解決していく方法を獲得する。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	仲間づくり コミュニケーションワーク			今日の授業内容を振り返る		
	2	チームづくり 日本記録に挑戦(練習日)			今日の授業内容を振り返る		
	3	チームづくり 日本記録に挑戦(記録日)			今日の授業内容を振り返る		
	4	ドッチビー 投げる事を考える			今日の授業内容を振り返る		
	5	ドッチビー 投げる事を考える② 応用編			今日の授業内容を振り返る		
	6	ペタンク 輪投げ お手玉 投げる事を考える③ 現場編			今日の授業内容を振り返る		
	7	ペタンク 輪投げ お手玉 投げる事を考える④ 現場 応用編			今日の授業内容を振り返る/次回小テストの内容について学習		
	8	シャフルボード お手玉大会 小テスト			今日の授業内容を振り返る		
	9	アルティメット 走攻守 ゲーム体験①			今日の授業内容を振り返る		
	10	ユニホック 走攻守 ゲーム体験②			今日の授業内容を振り返る		
	11	チームビルディング オリジナル作り			オリジナル提出のグループ活動		
	12	グループワーク オリジナル提出日			発表内容の練習		
	13	オリジナル発表			オリジナル発表内容について反省会		
	14	オリジナル発表 リクエスト			今日の授業内容を振り返る		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技)			◎	◎		90%
	小テスト	◎					10%
履修上の注意	例年通り授業中にテストを行います(13・14回目に実施)						

科目名	文章講座						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	小川 春美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	文章の基本的なルールを理解し、文章の構成を整えることができるようになることを目標とします。本講義では、積極的に表現することが求められます。きつしたこと、感じたこと学んだことを書き出します。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		文章の基本的なルールや構成について説明できる。	
	○	○		○		論文作成においての基本的事項について説明できる。	
	○	○		○		レポートの基本事項について理解し、作成できる。	
テキスト・教材 参考図書	参考文献:看護学生のためのレポートと論文の書き方 高谷 修 金芳堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	総論:文章を書く意味・文章を読む意味				テキストの予習をしておく。	
	2	レポートを書く基本①(手順)				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	レポートを書く基本②(読み方)				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	レポートを書く基本③(まとめ方)				テキストの予習をしておく。 レポートまとめの項を復習しておく。	
	5	書くまでの3段階と書くことの意義①				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	書くまでの3段階と書くことの意義②				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	論理的な読点の使い方				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	良い文章を書くには(基本)				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	良い文章を書くには(応用)				テキストの予習をしておく。 伝わる表現について該当の項を復習しておく。	
	10	論文に使う用語の諸問題				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	日本語の論理				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	日本語の敬語の論理				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	お礼文の書き方				配布資料を確認しておく。	
	14	論理的に正しい文章の書き方				テキストの予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
15	まとめ				テキストの予習をしておく。 伝わる表現について該当の項を復習しておく。		
評価方法	(1)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	○	○		○		100%
履修上の注意	講義ごとに必要資料を配付する。						

科目名	医学総論						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	今村 亜子・安藤 廣美 大久保 史子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	医療に関連するスタッフとして必要な基礎知識を学ぶ。当事者の談話や文献などを活用しながら、QOLに関して多角的なアプローチがあることを知る。ICFの考えを学び、総合的に考える力を身に付ける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					医学の歴史について説明することができる。	
	○					日本の医療システムの変遷について概略を説明することができる。	
	○					人の誕生と死について参考文献を通して理解し、その概念を説明することができる。	
	○					当事者の講話を聞き、その体験を通してQOLの概念を説明することができる。	
○					ICFの概念を知り、生活機能を通して対象者を理解していく方法を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:日野原重明「医学概論」医学書院 武田康男「いのちのケア」協同医書出版社 参考文献:ミッチ・アルボム「モリー先生との火曜日」キュブラ・ロス「死ぬ瞬間」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	医学概論			本日の内容を振り返り復習する		
	2	医学概論			本日の内容を振り返り復習する		
	3	医学概論			本日の内容を振り返り復習する		
	4	医学概論			本日の内容を振り返り復習する		
	5	病気の治療とリハビリテーション			本日の内容を振り返り復習する		
	6	予防医学			本日の内容を振り返り復習する		
	7	ホスピスを学ぶ			本日の内容を振り返り復習する		
	8	医療システム			本日の内容を振り返り復習する		
	9	いのちのケア			本日の内容を振り返り復習する		
	10	QOLについて			本日の内容を振り返り復習する		
	11	生命へのアプローチサイエンスとアートの面から			本日の内容を振り返り復習する		
	12	死への対応			本日の内容を振り返り復習する		
	13	支援者・家族の立場から			本日の内容を振り返り復習する		
	14	ICF(国際生活機能分類)の概念と応用について			本日の内容を振り返り復習する		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎				100%
履修上の注意							

科目名	解剖学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	佐藤 敦子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	基本的な解剖学用語を学ぶ。人体を構成する細胞・組織・器官系の概要、特に言語聴覚士として理解が必要とされる構造を学習する。人体各部の構造を機能と関連付けて理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				骨・関節・靭帯に関する構造、部位の名称、特徴を理解できる。	
	○	○				骨格筋の構造、頭部・顔面・体幹・上肢・下肢の位置や名称を理解できる。	
	○	○				内臓諸器官の名称、特徴を理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1.理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学 渡辺正仁(監修) 廣川書店 2.あたらしい人体解剖アトラス 佐藤達夫(訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル社 参考文献:1.日本人体解剖学 上・下巻(第19版) 金子丑之助(原著) 南山堂 2.ネッター解剖学アトラス(第5版) 相磯貞和(訳) 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	人体の構成、解剖学用語、細胞の構造と働き			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	2	組織学総論:上皮組織、支持組織(結合組織、血液)			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	3	神経系(総論):神経組織、神経系の発生			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	4	骨と関節(総論):軟骨組織、骨組織、関節の形状			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	5	筋系(総論):筋組織、骨格筋の特徴			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	6	循環器系①:心臓、動脈系			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	7	循環器系②:静脈系、リンパ系			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	8	呼吸器系:鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺、胸膜			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	9	消化器系:口腔、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	10	泌尿器系:腎臓、尿管、膀胱、尿道			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	11	生殖器系:男性生殖器系、女性生殖器系			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	12	内分泌系:人体の発生			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	13	感覚器系①:皮膚、味覚器、嗅覚器、平衡聴覚器			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	14	感覚器系②:視覚器			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	生物学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	山崎 喜代子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	現代医学に貢献しているだけでなく、人間観、自然観としても学ぶべき科学分野の一つです。前半では、生命をデザインし、すべての生物の情報系としての遺伝子DNAを概説し、生物工学の進歩についても学ぶ。後半では、生物にとっての生や死の意味を学ぶ。加えて人間理解の生物学的な考え方を学ぶ。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				生命の情報源である遺伝子DNAについてその概要について説明することができる	
	○	○				遺伝子DNAについてその役割について説明することができる	
	○	○				遺伝子DNAから影響を受ける諸因子について説明することができる	
				○		生物学的側面より人間理解を行うことにより医療人としての資質を得る	
テキスト・教材 参考図書	教科書:ライフサイエンス 生命の神秘 芋川浩著 木星社 (2016)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	遺伝子DNAの発見の歴史				本日の授業内容を復習してください	
	2	遺伝子DNAと細胞分裂				本日の授業内容を復習してください	
	3	遺伝子DNAとタンパク質合成				本日の授業内容を復習してください	
	4	遺伝子組み換え技術と生活				本日の授業内容を復習してください	
	5	遺伝子のリプログラミングとiPS細胞				本日の授業内容を復習してください	
	6	エピゲノム:環境による遺伝子支配				本日の授業内容を復習してください	
	7	予備日				本日の授業内容を復習してください	
	8	遺伝的多様性と有性生殖				本日の授業内容を復習してください	
	9	遺伝子と個体の発生分化				本日の授業内容を復習してください	
	10	遺伝子と胎児診断				本日の授業内容を復習してください	
	11	遺伝子と老化・死				本日の授業内容を復習してください	
	12	遺伝子と癌				本日の授業内容を復習してください	
	13	徳の遺伝子				本日の授業内容を復習してください	
	14	予備日				本日の授業内容を復習してください	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				70%
	小テスト	○	○		○		30%
履修上の注意	毎回の授業の最後に小テストを行う						

科目名	生理学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	坂口 博信		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	人体についての基礎知識は医療に携わるひとには欠かせない。生理学は、人体の生命現象の仕組み(機能)を理解するための学問であり、医学の中で、最初に学ばねばならない基礎中の基礎となる科目である。本講義では、人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを学習する。さらに、人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを理解していく						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを説明できる	
	○	○				人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:カラー図解 新しい人体の教科書 上・下巻 講談社 ブルーバックス						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	生理学序論			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	2	細胞と内部環境			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	3	末梢神経系 脳神経、脊髄神経、自律神経			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	4	血液 酸-塩基平衡			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	5	生体防御 一免疫一			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	6	循環			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	7	呼吸			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	8	消化と吸収			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	9	栄養と代謝			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	10	腎臓と排泄			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	11	内分泌			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	12	性と生殖			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	13	筋の収縮Ⅰ 骨格筋			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	14	筋の収縮Ⅱ 心筋・平滑筋			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	病理学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	自見 至郎		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病織学は、病気の原因や病態を知るため、様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようにすることを最終目標とする。細胞の機能の理解や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになることを目的とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学において、病気の原因や病態を知る。	
	○					様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになる。	
	○					細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 医学書院 系統看護学講座 病理学(疾病の成り立ちと回復の促進1)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	細胞・組織・器官			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	2	病理学概論(病因と組織変化)			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	3	内因と外因・病気の分類			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	4	先天異常、遺伝子・染色体異常			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	5	代謝障害と細胞および組織変化(変性と壊死)			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	6	脂質、タンパク質代謝障害			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	7	タンパク質代謝における肝臓と腎臓の役割			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	8	ビリルビン代謝障害、循環障害1(充血、うっ血、貧血、虚血)			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	9	循環障害2(血栓症、塞栓症、梗塞、浮腫)			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	10	炎症、免疫			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	11	アレルギー			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	12	免疫不全、移植			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	13	腫瘍1			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	14	腫瘍2			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	聴覚系医学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	星子 隆裕		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	本講義では聴覚系リハビリテーション医学の基礎を学びます。前半は構造と機能を学び、人が音を認識するまでに何が起きているのかを説明することができるようになることを目標とします。後半は聴覚系の困難さとその原因を探る方法を学びます。講座全体を通して、学習の方法を身に付けてもらいたい。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				聴覚器の構造と機能を説明できる。	
	○	○				聴覚検査を列挙し、それぞれの概要を説明できる。	
	○	○				聴覚系の疾患の名称を列挙できる。	
	○	○				聴覚系の疾患の特徴を概説できる。	
			○	○		授業時に質問ができる。課外学習の取り組みがある。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:森満 保. イラスト耳鼻咽喉科 第4版 文光堂 参考文献:日本言語聴覚医学会. 聴覚検査の実際 第3版 南山堂 言語聴覚士テキスト 言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	聴覚系医学総論～音とは何か ～聴覚のリハビリテーション			Classiによる課題		
	2	構造機能1:外から見える部位と聞き覚えのある部位;外耳、中耳			Classiによる課題		
	3	構造機能2:偉大な耳の力;中耳、内耳			Classiによる課題		
	4	構造機能3:音の受容の流れを知ろう;伝音および感音機構			Classiによる課題 レポート「音を受容するまでの流れ」		
	5	聞こえていますか聞こえていません:聞こえ以外の内耳の機能			Classiによる課題		
	6	ふらつとする、音がする:バランスと病態			Classiによる課題		
	7	聞こえますか?:聴覚検査			Classiによる課題		
	8	どんな風に聞こえていますか?:内耳機能検査			Classiによる課題		
	9	ゆれていますか?:他覚的聴覚検査			Classiによる課題		
	10	火花、起きていますか?:ABRなど			Classiによる課題		
	11	検査は大人だけが対象ではありません:小児聴覚検査			Classiによる課題 レポート「検査の選択基準」		
	12	これを知らねば定期試験は通らぬ:聴覚系疾患			Classiによる課題		
	13	これを知らねば国家試験は通らぬ:聴覚系疾患			Classiによる課題		
	14	その知識、活かせるのか?症例問題グループワーク			Classiによる課題		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)授業時の質問や取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト	○	○				15%
	宿題・レポート		○		○		10%
質問・取り組み				○	○	5%	
履修上の注意	まとめ課題レポートあり。小テスト評価に含む。						

科目名	生涯発達心理学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	大森 晶子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	出生後から幼児期までの発達の様子と理論を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				遺伝と環境が発達に及ぼす要因について説明できる	
	○	○				発達理論、研究方法すべてを述べることができる	
	○	○				胎児期の発達の特徴について説明できる	
	○	○				乳児期から成人期までの発達の概要を項目別に説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:「手にとるように発達心理学がわかる本」かんき出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	遺伝と環境			テキストで復習		
	2	発達の理論			テキストで予習復習		
	3	発達の研究方法			テキストで予習復習		
	4	胎児期から乳児期の発達			テキストで予習復習		
	5	乳児の身体発達			テキストで予習復習		
	6	乳児の運動発達			テキストで予習復習		
	7	乳児の知覚発達			テキストで予習復習		
	8	乳児の気質発達			テキストで予習復習		
	9	幼児の思考力の発達			テキストで予習復習		
	10	幼児の遊びと絵の発達			テキストで予習復習		
	11	児童の知能発達			テキストで予習復習		
	12	児童の知能・感情発達			テキストで予習復習		
	13	青年期とアイデンティティ			テキストで予習復習		
	14	成人期			テキストで予習復習		
15	まとめ			授業で学んだことを項目別にまとめる			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				90%
	宿題・レポート	◎	◎				10%
履修上の注意							

科目名	言語学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	高井 岩生		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	言語学の授業の目標は、日本語の文法、音声、表記体系についての基礎的な知識を身に付けることである。前期では、音韻論と形態論を中心に講義を行う。合わせて、音韻論、形態論の国試の問題が解けるようになることも目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				言語学の成り立ちについて説明ができ、音声学とのつながりを概観できる。	
	○	○				音韻論におけるそれぞれの要素について概要を説明できる	
	○	○				形態論におけるそれぞれの要素について概要を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:使用せず。プリントを配布する。I 言語聴覚士テキストを使用するので、授業時は持ってくること。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	言語学の紹介と音声学の入門				該当するプリントの内容を復習する	
	2	音声学概論1(音声器官, IPA)				該当するプリントの内容を復習する	
	3	音声学概論2(子音, 母音)				該当するプリントの内容を復習する	
	4	音韻論1(音素と単音)				該当するプリントの内容を復習する	
	5	音韻論2(最小対, 相補分布)				該当するプリントの内容を復習する	
	6	音韻論3(音節と拍)				該当するプリントの内容を復習する	
	7	音韻論4(アクセント)				該当するプリントの内容を復習する	
	8	形態論1(形態素)				該当するプリントの内容を復習する	
	9	形態論2(異形態)				該当するプリントの内容を復習する	
	10	形態論3(語の構造)				該当するプリントの内容を復習する	
	11	形態論4(表記と形態素)				該当するプリントの内容を復習する	
	12	形態論5(述語の構造)				該当するプリントの内容を復習する	
	13	音声学のまとめ				これまでのプリントについて重要なポイントについて知識を深める	
	14	形態論のまとめ				これまでのプリントについて重要なポイントについて知識を深める	
15	全体のまとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	音声学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	吉岐 勝		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	私たちは普段人と話をする際、「音声」を媒介にしてコミュニケーションを行っています。音声に対する理解を深めることは臨床現場において有益なものであると言えます。この授業では発音、知覚、物理の3つの側面に関する音声の知識を身につけると同時に、実践練習を積むことで音声を扱えるようになることを目指します。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				日本語の発音について国際音声字母で表記できる	
	○	○	○			日本語の音について正しい調音位置・方法を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 斎藤純男(2006)『日本語音声学入門(改定版)』東京:三省堂						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	音声学で扱う対象を理解する			指定教科書の授業該当部分を復習する		
	2	発音の仕組みを理解する			指定教科書の授業該当部分を復習する		
	3	母音を記述する			指定教科書の授業該当部分を復習する		
	4	子音を記述する 3つの基準を理解する			指定教科書の授業該当部分を復習する		
	5	子音を記述する 調音位置(構音点)による分類を理解する			指定教科書の授業該当部分を復習する。構音点について演習しておく		
	6	子音を記述する 調音方法(構音法)による分類を理解する			指定教科書の授業該当部分を復習する。構音法について演習しておく		
	7	日本語の音声を記述する			指定教科書の授業該当部分を復習する。記述練習をする		
	8	日本語の音声現象①			指定教科書の授業該当部分を復習する		
	9	日本語の音声現象②			指定教科書の授業該当部分を復習する		
	10	日本語の音韻体系を理解する			指定教科書の授業該当部分を復習する		
	11	日本語の音の単位を理解する			指定教科書の授業該当部分を復習する		
	12	日本語のアクセントを理解する			指定教科書の授業該当部分を復習する		
	13	日本語のイントネーションを理解する			指定教科書の授業該当部分を復習する		
	14	日本語の音の発話演習			自主練習しておく		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	音響学(聴覚心理学含む)						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	藤井 忍		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	①音の物理的性質およびその性質を量的に表現する様々な単位について学ぶ ②電気音響機器に関する基礎的事項について学ぶ ③音声の生成、分析・合成に関する基礎的事項を学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				音の物理的特性(波長、周期、周波数)について説明できる。	
	○	○				音の物理的特性(共鳴、回折、反射、屈折、ドップラー効果)について説明できる。	
	○	○				スペクトルを概説できる。	
	○	○				音声音響を概説できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:『言語聴覚士の音響学入門』海文堂出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	はじめに	音とは何か?(音の物理的性質体験1)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2		音とは何か?(音の物理的性質体験2)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	音波の性質	波長、周期、周波数、音波の伝搬			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4		共鳴、回折、反射、屈折、ドップラー効果			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	音の強さの尺度	音圧、音の強さ、デシベル			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6		音圧レベル、騒音レベルなど			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	音のスペクトル	スペクトルの意味と実例、各種ノイズ			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8		スペクトル分解、短音スペクトル			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9		サウンドスペクトログラム、アナログとデジタル			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	音声音響学	音声の生成			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11		フォルマント、アンチフォルマント			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12		フォルマント遷移			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13		総合分析			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	まとめ					
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	言語発達学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	福島 志津		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	人間の誕生から死ぬまでの生涯発達の観点から、ことばの獲得、獲得の条件、発達過程について学ぶと同時に、言語発達に関係する他の領域の基礎も学習する						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語発達の基本的概念について説明できる	
	○	○				言語発達の生理学的基盤について説明できる	
	○	○				言語発達の各領域の発達と主要理論について説明できる	
	○	○				保育園児の行動を観察し、発達表との比較検討を実施する	
テキスト・教材 参考図書	教科書:乳幼児期のことばの発達とその遅れ 小椋たみ子/小山正/水野久美:著 (ミネルヴァ書房) よくわかる言語発達 岩立志津夫・小椋たみ子:編 (ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ことばとは何か? (1)ことばの特徴			教科書の予習しておく		
	2	ことばとは何か? (2)ことばの役割 (3)ことばの領域			教科書の予習しておく 授業資料のまとめを復習しておく		
	3	ことばとは何か? (4)ことばの獲得の理論①			教科書の予習しておく 授業資料のまとめを復習しておく		
	4	ことばとは何か? (4)ことばの獲得の理論②			教科書の予習しておく 授業資料のまとめを復習しておく		
	5	音声知覚の発達			教科書の予習しておく 授業資料のまとめを復習しておく		
	6	音声表出の発達			教科書の予習しておく 授業資料のまとめを復習しておく		
	7	コミュニケーション能力の発達			教科書の予習しておく 授業資料のまとめを復習しておく		
	8	ことばの獲得の認知的基盤 (1)象徴機能 (2)音声とモノの意味づけ			教科書の予習しておく 授業資料のまとめを復習しておく		
	9	ことばの発達の認知的基盤 (3)ことばの発達と模倣能力の関連			教科書の予習しておく 授業資料のまとめを復習しておく		
	10	ことばの発達の認知的基盤 (4)ことばの発達とカテゴリー化能力			教科書の予習しておく 授業資料のまとめを復習しておく		
	11	ことばの発達の道筋 (1)語の獲得			教科書の予習しておく 授業資料のまとめを復習しておく		
	12	ことばの発達の道筋 (2)文法の発達			発達表の内容を予習しておく 授業資料のまとめを復習しておく		
	13	保育所見学の基礎知識 (1)遠城寺式 (2)言語発達尺度 ほか			保育所見学時の行動観察のポイントを調べておく 発達表の見方を復習しておく		
	14	保育所見学のまとめ			他の学生のレポートも目を通しておく		
15	まとめ			試験対策としてのまとめ資料を読み、復習しておく			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				75%
	宿題・レポート	◎	◎				25%
履修上の注意							

科目名	言語聴覚障害総論 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	灘吉 享子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院において 言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	①言語聴覚士とは何か、どのような仕事をするのかについて具体的イメージをもつ ②言語聴覚士が対象とする障害について概観する ③毎回の小テストを通して、勉強の仕方を知る						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語聴覚療法の歴史について概要を説明できる	
	○	○				言語聴覚士法および関係法規について概要を説明できる	
	○	○				主要な言語聴覚士が係わる障害について概要を説明できる	
	○	○				最近の言語聴覚士に求められている業務内容について概要を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:言語聴覚療法シリーズ1「改訂 言語聴覚障害総論 I」 倉内紀子 編著,建帛社,2012						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	言語聴覚士とは	言語聴覚士とは何か(仕事・目的・定義・業務)	指定教科書の該当部分を復習する			
	2		言語聴覚士とは何か(歴史・資質・将来・働く場)	指定教科書の該当部分を復習する			
	3	どのような障害 を対象とするの か	コミュニケーション過程について	指定教科書の該当部分を復習する			
	4		失語症	指定教科書の該当部分を復習する			
	5		高次脳機能障害	指定教科書の該当部分を復習する			
	6		構音障害	指定教科書の該当部分を復習する			
	7		摂食・嚥下障害	指定教科書の該当部分を復習する			
	8		聴覚障害	指定教科書の該当部分を復習する			
	9		吃音	指定教科書の該当部分を復習する			
	10		小児の言語障害	指定教科書の該当部分を復習する			
	11	実際の仕事	言語聴覚士の臨床活動	指定教科書の該当部分を復習する			
	12		言語聴覚士の臨床活動	指定教科書の該当部分を復習する			
	13		ICF、チームアプローチ	指定教科書の該当部分を復習する			
	14		地域リハビリテーション・在宅リハビリテーション	指定教科書の該当部分を復習する			
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	言語聴覚障害総論Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	小川 春美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	①小児発達のイメージを持つ ②患者団体との交流を通して、障害の実際と言語聴覚士の役割を知る ③共同作業を通して、コミュニケーションとチームで動くことを学ぶ ④レポートの書き方を学ぶ						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		合宿活動における目的と自分の役割について説明できる。	
	○	○		○		保育園の活動内容や小児の言語・運動の発達について理解できる。	
	○	○		○		当事者の会での言語聴覚士の役割を理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	合同合宿 1泊2日	目的と概要 合同合宿の準備と運営、実施にあたっての心 構え	2年生の説明内容の確認をしておく。前年度の合宿資料を読み、係についての質問事項を考えておく。合宿の目的に合わせ自分の役割を係のメンバーと話し合っておく。対人コミュニケーションの種類を確認しておくこと。			
	2			場面による声かけについても係で決めておく。			
	3			活動内容を事前に確認し、必要な情報に確認をしておくこと。			
	4			実施時の状況によって活動変更が必要か確認すること。			
	5			合宿資料に目を通し、必要な班や係のチームとしての活動を振り返り表現できるようにすること。			
	6			チームワークとコミュニケーションについて他者の意見も確認しディスカッションできるようにしておく。			
	7	実習、交流会	準備・実習に行く際の心構え、注意点など ・吃音の基礎知識	資料を通して活動内容が理解できるようにしておく。			
	8			実習や交流会の対象場面での心構えを確認しておく。			
	9	保育園実習	あゆみらい保育園に実習 レポート提出	小児の言語や運動面の発達について確認しておく。身だしなみに留意すること。実施日に内容や気づいたことをまとめておくこと。			
	10			対話がすすむよう、聞く、話す内容に留意すること。			
	11	言友会交流会	吃音者の方々との交流会 レポート提出	実施日に内容や気づいたことをまとめておくこと。			
	12						
	13	まとめ	レポート提出後にフィードバック				
	評価方法	(1)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験(筆記)		◎	◎		◎		50%
実習レポート		◎	◎	◎	◎		50%
履修上の注意							

科目名	言語発達障害 I						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	相浦 満津子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	小児の言語発達の阻害要因となる諸障害について基本的特性と症状を理解し、評価および支援の方法を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				小児の言語発達の阻害要因とその障害について述べるができる	
	○	○				言語発達の評価方法および検査について説明できる	
	○		○			手引きに沿った言語発達評価が実施できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版 藤田郁代(監修) 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	言語発達障害とは			教科書で予習復習する		
	2	言語発達阻害要因 聴覚障害			教科書で予習復習する		
	3	言語発達阻害要因 知的障害			教科書で予習復習する		
	4	言語発達阻害要因 自閉症スペクトラム			教科書で予習復習する		
	5	言語発達阻害要因 特異性言語発達障害			教科書で予習復習する		
	6	言語発達阻害要因 学習障害			教科書で予習復習する		
	7	言語発達阻害要因 注意欠陥多動性障害			教科書で予習復習する		
	8	言語発達阻害要因 脳性麻痺			教科書で予習復習する		
	9	言語発達阻害要因 後天性言語障害			教科書で予習復習する		
	10	言語発達阻害要因 環境要因			教科書で予習復習する		
	11	言語発達阻害要因まとめ			教科書で予習復習する		
	12	言語発達の評価			手引き、記録用紙で復習する		
	13	言語発達の評価			手引き、記録用紙で復習する		
	14	言語発達の評価			手引き、記録用紙で復習する		
15	まとめ			授業で学んだ内容をまとめ、整理する			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	聴覚障害 I						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	井上 康子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	I 聴こえの仕組みと難聴の種類について基本的知識を得る。 II 「聴こえにくいこと」について具体的イメージをもつ。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:	○ その他: △	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				聴覚器の構造と機能を説明することができる。	
	○	○				聴覚障害の種類、難聴の特徴を述べるができる。	
		○				オーディオグラムへ聴力を記入することができる。	
		○		○		聴力検査結果から障害像を推察することができる。	
			○	○		難聴を疑似体験し、自分の意見を述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 言語聴覚療法シリーズ 5 山田弘幸編著 改訂 聴覚障害 I - 基礎編 建帛社 2007 言語聴覚療法シリーズ 6 山田弘幸編著 改訂 聴覚障害 II - 臨床編 建帛社 2008 日本聴覚医学会編 聴覚検査の実際 改訂4版 南山堂 2017						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	聴覚の役割を考える				授業内容に該当する指定教科書の街頭部分を復習しておく。	
	2	聴こえの仕組み 伝音系①				授業内容に該当する指定教科書の街頭部分を復習しておく。	
	3	聴こえの仕組み 伝音系②				授業内容に該当する指定教科書の街頭部分を復習しておく。	
	4	聴こえの仕組み 感音系①				授業内容に該当する指定教科書の街頭部分を復習しておく。	
	5	聴こえの仕組み 感音系②				授業内容に該当する指定教科書の街頭部分を復習しておく。	
	6	聴覚障害の種類				授業内容に該当する指定教科書の街頭部分を復習しておく。	
	7	伝音難聴と感音難聴の区別①				授業内容に該当する指定教科書の街頭部分を復習しておく。	
	8	伝音難聴と感音難聴の区別②				授業内容に該当する指定教科書の街頭部分を復習しておく。	
	9	聴覚障害者の聴こえ 聴こえのシミュレーション				聞こえ方、感じ方についての気づきを記録しておく。	
	10	オーディオグラムの書き方				模擬的に聴力検査を行い、オーディオグラムを記入しておく。	
	11	オーディオグラムを書いて、難聴の種類を考える				授業内容に該当する指定教科書の街頭部分を復習しておく。	
	12	疑似難聴体験①				聞こえ方、感じ方についての気づきを記録しておく。	
	13	疑似難聴体験②				聞こえ方、感じ方についての気づきを記録しておく。	
	14	疑似難聴体験③				レポート課題	
15	まとめ						
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				90%
	レポート				◎		10%
履修上の注意							